

AQUA

一般社団法人BMW技術協会 機関紙

2025 AUGUST 8月号

No. 393

写真：日南海岸の砂岩

西日本BMW技術協会 第33期総会・研修会 第24回BMW技術基礎セミナー 報告

7月9日（水）、西日本BMW技術協会第33期総会・研修会と第24回BMW技術基礎セミナーが宮崎県綾町で開催されました。

研修会は西日本BMW技術協会とBMW技術協会の基礎セミナーの共催ということで開催し、西日本BMWの会員76名とセミナー参加者15名の合計91名の参加がありました。

研修会は、午後1時から町内の現地視察、午後3時から綾川荘研修室で3名の方に発表いただきました。そして午後5時から西日本BMW技術協会総会が開催されました。その後、81名の参加を得て大懇親会が開催されました。

◎研修会①町内視察

（バス2台で視察しました）

午後1時に綾川荘を出発し、最初は綾町有機農業開発センターの生物活性水プラントの視察で



綾町有機農業開発センターの生物活性水プラントにて

す。センターの担当の永井さんから生物活性水の活用状況の報告があり、続いてBMW技術協会の秋山澄兄さんから、プラントは約5000リットルのホーロータンク×4基で、最初に堆肥浸み出し槽を設置している、1日の最大使用量は450リットルになることの説明がありました。

次に綾豚会（りょうとんかい）の飼料工場に向かったのですが、途中の車中から、紙マルチを使った田んぼと、除草（アイガモ）ロボットが動いている田んぼを見ました。綾豚会の飼料工場では杉田薫さんから「綾豚会は7人の生産者で母豚は1600頭の規模であること、この工場は年間約3600トンの飼料を製造しており、くみあい飼料から8割、残りはグリーンコープ指定の大豆粕など様々な原料を混ぜて、飼料を作っている」ことなどを説明いただきました。



綾豚会の飼料工場にて説明する杉田薫さん（右）

グリーンコープの組合員も多く参加されていましたので、どうやって配合しているのか、飼料運搬トラックへの積み込みはどうしているかなどの質問がありました。

次にすぐそばの綾菜会（りょうさいかい）の松井道生さんのゴボウの圃場を視察しました。「抜いて良いですか」（松井さん）「良いですよ。抜けるものなら抜いてください」〜よっころしよ、もちろん抜けずに葉がもげてしまいました。バスで移動して、さつま芋の圃場を見ます。「基腐病（もとぐされびょう）は大丈夫ですか」という質問に（松井さん）「有機肥料を適切に使うと基腐病にはかからないです」という応答でした。次にカボチャの圃場も見ました。カボチャはグリーンコープに出荷され、カットして販売されるということです。



松井さんの圃場にてゴボウを引き抜こうとする参加者

◎研修会②（綾川荘研修室）

（91名が参加されました）

最初に地元綾町の松本俊二町長から来賓のご挨拶をいただきました。

「綾町での開催に感謝します。県内、九州、遠く北海道から約90名の参加とお聞きしています。綾町は自然と共生する町を理念として、日本で最大級の照葉樹林があり、本物を追求して時代の先を見据えて挑戦しています。有機農業や手作り工芸などに取り組み、2012年にはユネスコエコパークに指定され、地域資源を生かした地域づくりをしております。」

皆さんが取り組んでおられるBMW技術は綾町が目指す町づくりと方向を同じにするものであり、環境と経済の両立を目指す意義ある取り組みであると認識しています。今後ますます脱炭素社会を目指して、行政・民間・地域住民が一体になって、特色ある取り組みを進めて行きます。」

発表に入る前に、机上に置かれている缶のお茶が、本日発表される村上園の茶葉を使ったものであることが紹介されました。

～事例報告発表～

最初に、地元の綾菜会の松井道生さんから「綾町の有機農業の取り組みについて」ということで発表がありました。

①松井道生さん（綾菜会／宮崎）

「綾町は宮崎県宮崎市に隣接し、綾北川と綾南川の源流の町です。人口は6500人くらいで高齢化が進んでいま



松本俊二綾町長



松井道生さん（綾菜会）



緒方健さん（熊本県愛農会野菜部）

す。綾町は郷田町長と前田町長の時期に農協と行政が一体的になって有機農業を立ち上げました。まだ有機農業や自然生態系農業という言葉もない時代に、しかも野菜は作れば売れる時期に無農薬・無化学肥料で作るということを提案しました。町民が自分で食べる野菜は自分で作るという一坪菜園運動があったことも影響しています。綾手づくりほんものセンターや有機農業開発センターの開設なども後押しになりました。

そして綾町の知名度が上がり、土づくりのおかげで消費者・グリーンコップの組合員にも喜んでもらっています。行政がJAS有機認証登録機関を作り出した。こんな例は綾町以外はほとんどないと思います。

綾菜会の紹介です。綾菜会のメンバーは、以前は農協を通じて出荷していたのですが、どこでどんな人が食べてくれているのか分からなかったため、独立することにしました。現在9名のグループですがやりがいを感じています。冬期の出荷品目が多いのですが、夏の野菜も工夫

して作るようにしています。

これは2023年に開催されたG7宮崎農業大臣会合で各国の農業大臣が私の農園を訪問していただいた際の写真（図①）です。綾町はすごく進んだ取り組みをしていると思うのですが、ヨーロッパではそれが普通になっているということを感じました。

綾オーガニックスクールについての報告です。これまで6名が入学して1名は卒業して就職し、グリーンコップの出荷生産者になっています。出荷できるまでサポートする体制です。これは具体的な農法です。太陽熱処理で人参やほうれん草の圃場を処理しています。畑かんを利用した湛水防除もしています。線虫や雑草が除去できます。天敵温存植物であるソルゴーを植えると、なすやオクラは虫が全然付きません。綾オーガニックスクールを卒業する際は耕作放棄地などを整備して、50〜60aの圃場を用意します。綾オーガニックスクールは全国から注目されて問い合わせが多いです。地域おこし協力隊として給与面も保障されます。

これからは有機給食に力を入れたいと思っています。また機能性堆肥ということで生物活性水を使って品質の向上もほかり、病害虫の予防にも取り組みたいと思っています。生物活性水の活用例を少しお話します。台風のとりにレタス類の苗3万本の半数が倒れてダメかと思うのですが、生物活性水の原液を1週間ほどかけたらほぼ回復しました。」

次に、熊本県愛農会野菜部の緒方健さんから「少量多品目での有機農業と現実」として発表がありました。

②緒方健さん（熊本県愛農会野菜部／熊本）

「父が脱サラをして1972年有機農業を始めました。私は農業を継ぐつもりでしたが、父とケンカして製造業の現場で5年ほど働きました。しかし、3交代勤務がきつくて、27歳の時に農業を継ぎました。標高は300mくらいで、田んぼ1.5haと畑1.5ha合計3haで7割が借地です。販売は野菜セットで400万円、お米が330万円、これら

はすべて個人向けです。グリーンコープには共同購入に人参、店舗などで50万円ほどです。野菜セットは10〜13種類で2800円、送料別です。お客さんは県内が6〜7割、3割が関東です。作っている作物は人参・ジャガイモ・玉ねぎ、白ねぎ、大根、葉野菜や果菜類全般です。田んぼは3ヶ所、畑も3ヶ所、畑はJAS有機認証、田んぼは無農薬・無化学肥料です。圃場は自宅から2〜2.5kmの範囲にあり、国道を使って行き来できるので便利な場所です。

使用している資材は、清村養豚場の豚糞堆肥とBM豚尿処理水、鶏糞、有機石灰などです。

作物ごとに説明します。ジャガイモは春にメークイン、秋に出島の年2作で、6〜7年作っても、そうか病はあまり出



綾川荘での研修会の様子

ません。玉ねぎは4月下旬から12月まで出荷するのですが、後半は吊るしたものを出荷します。人参は2年くらい連作です。坊ちゃんカボチャとソルゴーの混植は土づくりを兼ねています。ソルゴーがあるのぢょうと採りづらいです。

秋作のかぼちゃは12〜3月まで出荷ですが、冬至カボチャとして出したいと思っていました。きゅうりは育苗ハウスで苗づくりをしています。きゅうりの2回目は、台風対策で棚にせずに地這いしています。白ねぎは今くらいから苗を植えるのですが、植え付けも除草も炎天下で大変です。ブロッコリーを冬期にハウスで作っています。BM豚尿処理水を反当り3〜4トン入れます。ブロッコリーの後にトマトを植えるのですが、6〜7月収穫で4段くらいです。

水稲は、除草にジャンボタニシを使っています。1日油断すると稲が食べつくされるので田植え後20日間くらいは水の管理に神経を使います。田んぼは全部で30枚くらいあります。2週間に一度くらい汗かきながら除草をします。今年から学校給食に採用してもらいました。

生姜はソルゴーのあとに全面マルチして植え付け、梅雨が明けて剥がします。貯蔵は20kgのコンテナにポリ袋、14℃くらいで保管します。

まとめると、少量多品目を生産することで季節の野菜が食べられるということと、一方で、理想的な経営なのですが野菜セットの内容を年中気にする必要があります。大変さもあります。

最後に、静岡県の村上園の村上真也さんと倫久さんから「BMW技術を使ったお茶の有機栽培」として発表がありました。

③村上真也さん・倫久さん(村上園・静岡)

自然環境を守る循環型農業を目指しています。村上園は、静岡県の中山間地で、雪は降らないが降水量は多い、雲海が多く、お茶作りにかかせない朝霧が多く発生する地域です。1974年より無農薬無化学肥料栽培を開始し、2006年に有機JAS認証を取得しました。茶園は4.7ha、製茶工場は中くらいの能力です。堆肥舎、BM生物活性水プラント、肥料配合所があります。

お茶は朝摘んでその日のうちに製茶にします。工場では蒸気をあてて蒸します。深蒸し・浅蒸しと言われるのはこの蒸し具合です。ふるい・選別したのち焙煎します。堆肥は、生物活性水をかけて発酵させます。肥料配合所では魚粕や菜種などを配合します。お茶の収穫は、4月下旬からの一番茶を煎茶、6月下旬からの二番茶は紅茶・ウーロン茶などの発酵茶、9月下旬からの秋冬番茶は缶飲料用です。お茶で有機栽培をすると病害虫がひどく、慣行栽培に比べ、収量は通常半分以下となります。収量が少ないと肥料代以外にも重油やガスなどの燃料費もかかるため、赤字になることが多いのです。

生物活性水プラントの原料は自家製堆肥を使っています。生物活性水は葉面散布に使っています。300倍にすると葉と茎が増えすぎるので1000倍で、散

布の回数を多くしています。収量が増え、反当り500〜800kgになります。また害虫の被害が激減します。炭疽病にかかると葉がカリカリになり、光合成ができなくなるのですが、生物活性水を散布することにより、炭疽病の発生率が減少します。

自家製堆肥の製造にも生物活性水を使います。原料は、しょうゆ粕、米ぬか、もみ殻で、前年の堆肥を種堆肥として入れて生物活性水をかけて発酵させます。週に一度ほど切り返しをあまり温度が上がらないように注意しています。圃場には反当り3トンほどを撒きます。

お茶は苗木の時期は雑草対策に手間がかかります。背の低い雑草を増やすようにして対策しています。この雑草を増やすために生物活性水を葉面散布します。お茶は挿し木で増やすのですが、生物活性水の100倍希釈を底面給水すると発



村上真也さん(左)・倫久さん(村上園)

根の勢いが良くなります。

村上園が有機栽培にこだわるのは、お茶は農薬をかけた葉も洗い流すことなく加工され、残留農薬があれば、そのまま体内に取り込むことになるからです。また、農薬は土壌に残り続け、徐々に河川を通じて海まで流れるので周辺の環境への配慮という意味からも有機栽培にこだわっています。以前分析した抗酸化力でも村上園のお茶は優れています。村上園は慣行栽培にも負けない内容のあるお茶にこだわっています。

以上で研修会を終了しました。

西日本BMWの事務局より「西日本BMW技術協会総会には、全国の仲間も是非そのまま総会にオプザーバー参加をお願いしたい」との案内がありました。

◎西日本BMW技術協会第33期総会報告（89名が参加されました）

糸島BMW農法研究会（福岡）の柴田周作さんの司会で始まりました。最初に西日本BMW技術協会会長の浦克稔（うらかつとし）さんから挨拶がありました。

「本日は多数の参加ありがとうございました。開催を準備された関係者の皆さん本当にありがとうございました。私は13年間会長をさせていただいていますが、豚のことしか分かりません。豚については佐賀県の農場で豚熱が発生し、各地で野生イノシシから豚熱が見つかっています。中国・韓国でも豚熱やアフリカ豚熱が蔓延しています。また鳥インフルエンザも世界的に発生しており、鶏肉の大産



浦克稔会長



伊藤幸蔵理事長



新たに顧問に就任された宮崎利明さん



前に出て挨拶をする西日本BMW技術協会役員

地であるブラジルでも発生しましたので食肉の需給バランスに影響を与えるのではないかと思っています。他の作物でもいろいろな苦労があると思います。こんな時期だからこそ伊藤理事長がおっしゃっている「迅速な情報共有」をする、そんな会にしていきたいと思っています。」

次にBMW技術協会の伊藤幸蔵理事長から来賓のご挨拶をいただきました。

「西日本BMW技術協会第33期総会おめでとうございます。研修会とセミナーの参加お疲れ様です。私のところでは見ることのできない照葉樹林・吊橋を始め、有機の施設・圃場も見せていただきました。私が初めてBMWの産地を椎名さんと訪問したのはこの綾町であることを思い出しました。三十数年前、23歳くらいだったと思います。その後綾町で開催された全国交流会でパネラーとして有機稲作の発表をしました。とても緊張したのを覚えています。

またここに来させていただいてありが

とうございます。気候変動と長期化する紛争は農業生産の現場にも肥料などの高騰の影響を及ぼしています。皆さん、生活者にも影響を及ぼしていると思います。国のあり方を変えられかねない状況です。30年前にBMW協会が提唱した、「地球環境の危機に際し、自然観を変え、技術を変え、地域のあり方を変える」が現実になってきました。しかし遅々として進みません。こんな時だからこそ、全国のアジアの仲間とともに課題を整理し解決策をみんなで探り、共に前に進みたいと思っています。今回のような機会を通してコミュニケーションを密にして共に頑張っていきたいと思っています。」

総会は浦会長の議長で進められました。宮崎利明事務局長が議案の提案を行い、活動報告・会計報告、活動方針・予算などすべての議案が了承されました。活動方針は次のようになっていきます。

「会員訪問やプラント巡回を積極的にして、会員のBMWプラントが適切に管理されるようにする。BMW技術学習会の

開催を積極的に進める。耕種農業における堆肥作り、特に堆肥場を新設する生産者がいるのでうまく行くようにサポートする。BMW技術基礎セミナーやBMW技術全国交流会、今年は茨城開催なので積極的に参加する。西日本BMW技術協会提供している農業用生物活性水については、2020年度から無料で提供しているが、西日本BMWの財政が許す限り引き続き無料で提供する。」

次に役員改選があり、新たに糸島BMW農法研究会の平野洋平さんが就任されること、これまで事務局長だった宮崎利明がグリーンコープを退職するので、顧問に就任し、新たに秦武士が事務局長に就任することが確認されました。

最後に役員全員が前に出て、紹介して総会を終了しました。

（西日本BMW技術協会 宮崎利明）

◎全国交流会への道

*全国交流会のテーマが決定しました。

7月22日(火)、茨城県茨城町のパルシステム茨城 栃木のみとセンターにて、第34回BMW技術全国交流会実行委員会の第2回ミーティングが開催され、清水裕一実行委員長(茨城BM)をはじめ19名が出席しました。

はじめに前回のキックオフミーティングの議事録の内容確認が行われた後、
①全国交流会のテーマ、②開催内容とスケジュールの詳細、③9月19日と24日に開催する学習会について、話し合いが行なわれました。

①全国交流会のテーマについて

「笑顔と絆が続く未来を求めて」～身近な環境を見つめ、持続可能な「食」「農」「くらし」を切り開こう～

メインテーマの「笑顔と絆が続く未来を求めて」については、生産者や消費者のくらしがお互いに厳しい環境の中、身近な家族や仲間が笑顔で暮らせ、生産者と消費者がお互いのくらしを理解しながら「食」を通じた、より深い絆を構築できる未来を築いていきたいという思いが込められています。

また、サブタイトルの「身近な環境を見つめ、持続可能な「食」「農」「環境」を切り開こう」については、人々の明日の細胞をつくり、生きものにとって最も大切な「食」を担う「農」と「農」の持続可能性を支える「環境」が極度に変化

かけていくのか、技術はどこまで有効なのか、自らの実践によって切り開いていくという意味が込められています。

②開催内容とスケジュールの詳細

11月11日(火)、12日(水)の2日間の内容について、各講演、報告、視察コース、スケジュールなどの詳細について、仮で作成された開催案内を基に意見交換が行なわれました。まとまった意見を踏まえ事務局で内容をまとめ、8月早々には開催案内を全国のBMW技術協会会員及び関係者に向けて発送する予定です。

③9月に開催する学習会について

9月19日(金)に奥地拓生氏(京都大学教授・BMW技術協会技術顧問)を迎え、涸沼から涸沼川を辿り、笠間の花崗岩石切場までの花崗岩調査と学習会を開催することになりました。

また、9月24日(木)には、パルシステム茨城 栃木の組合員・理事を対象とした、BMW技術基礎学習会を開催することになりました。

今回も実行委員会では熱のこもった意見交換が行なわれ、内容詳細が決まったことで11月の開催に向けて大きく前進しました。今後はBMW技術や食と農の現状、地球の歴史などについて、学習会を通して理解を深めながら、全国交流会の開催にむけて準備を進めていきます。

会員及び関係者の皆様には、開催案内を8月早々にお届けしますので、多くのご参加をお待ちしております。

(報告・第34回BMW技術全国交流会実行委員会事務局 秋山澄兄)

【第34回BMW技術全国交流会 開催概要】

「笑顔と絆が続く未来を求めて」

～身近な環境を見つめ、持続可能な「食」「農」「くらし」を切り開こう～

■開催日時

11月11日(火) 13時30分～17時30分

11月12日(水) 9時00分～12時30分

※12時45分～オプション視察

■開催場所『ホテル クリスタルパレス』

住所：茨城県ひたちなか市大平1丁目22-1

■全国交流会のスケジュール

◎一日目 11月11日(火)

- ・「基調報告」 BMW技術協会 理事長 伊藤幸蔵
- ・「基調講演①」 京都大学 教授 奥地拓生
- ・「基調講演②」 川田研究所 代表取締役 川田肇(予定)
- ・「開催地 基調講演」 茨城BM 代表取締役 清水裕一
- ・懇親会

◎二日目 11月12日(水)

茨城BM、パルシステム茨城 栃木、糸島BM農法研究会(福岡)などによる、BMW技術活用事例報告、実験報告など、6～7つの発表を予定しています。

◎視察コース

「Aコース」

・茨城BM生産者の圃場、清水牧場の堆肥場、BMプラント

「Bコース」

・ラムサール条約登録湿地「涸沼」にて涸沼生態系再生プロジェクトの取り組み、清水牧場の堆肥場とBMプラント

「Cコース」

・笠間市の花崗岩の石切場、借楽園と徳川公園

※視察コースは2日目の交流会終了後、バスで出発します。

※昼食はお弁当を車中で取っていただきます。

※帰りはJR水戸駅、ホテルクリスタルパレスで下車です。

■参加費

(1) 全国交流会の参加費

交流会参加費 8,000円(1日のみの参加でも同額)

懇親会費 8,500円

宿泊(朝食付) 10,000円(相部屋)

13,000円(シングル 限定44部屋)

(2) 視察コース

「Aコース」 6,000円

*弁当代・防疫対策費(防護服・靴カバー等)を含む

「Bコース」 6,000円

*弁当代、防疫対策費を含む

「Cコース」 7,500円

*弁当代・徳川ミュージアム入場料を含む

■参加申込方法と参加費について

・開催案内を8月初旬に会員の皆様に郵送、一部の会員の皆様にはメールでもお届けします。

・開催案内をご一読いただき、同封されている専用の参加申込書に記載の上、実行委員会事務局(BMW技術協会事務局)へFAXまたはメールにてお申し込み下さい。

・参加申込みの締切りは、9月22日(月)です。

・参加費は参加申込み後に指定の口座へお振り込み下さい。

・ご不明な点は、BMW技術協会事務局へご連絡下さい。



夢の谷ファーム（新潟） 石塚美津夫さん



石塚さんは、昭和28年（1953年）3月21日生まれで72歳です。

高校卒業後、笹神農協で働き始め、紆余曲折ありながら、バルシステムとの産直のキーマンとして37年間働くことになりました。2007年農協を退職して、農業に専念しながらバルシステムの職員や組合員の「教育係」として活躍されています。現在、息子さんとご夫妻と石塚さん自身と奥様の4人で夢の谷ファームという法人を作り、農業を営んでいます。最近では学校給食や菌のことに心身とも注ぐ口常です。

では石塚さんの人生を振り返ってみま

しょう。

1953年3月生まれで地元の明倫小学校で学びます。明倫小学校（現在は統合して笹神小学校）、笹神中学校（現在は統合して笹神中学校）に進み、県立「興農館高校」に進学します。ここは全寮制の農業高校で、卒業には30ページの卒業論文が必要だそうです。1学年120人くらいで4クラスあり、うち1クラスは女性のクラスだそうです。おかげで（何のおかげか知りませんが）、15歳でお酒を覚えたということ。1971年3月に卒業します。自分は農業をするつもりだったようですが、お父さんが「農協に

BMの人々

石塚美津夫さん

行け」と言ったので農協で働き始めます。2年で辞めるつもりでしたが、この農協で五十嵐寛蔵さんに出会います。五十嵐さんは当時専務で後に組合長になるのですが、五十嵐さんの農業・農協に対する想いに惚れて、結果的に37年間農協で働くことになりました。

——ささかみ農協では、石塚さんは一度も人事異動がなかったそうですね。

バルシステム関係の仕事を一貫してさせてもらいました。農協の仕組みとしては3〜5年ごとに異動する必要があるました。部署名を変えてというか、新たな部署を作りその部署で営農や産直交流事業をやり続けました。

——バルシステム（首都圏コープ）との取引はどういうきっかけだったのですか。

農協に入ったころは、食糧管理法（食管法）で米の自由な取引はできませんでした。農協では余った米を販売することにも制約があり、「ヤミ米販売」で組合長がつかまったりしました。

1978年7月21日に首都圏コープ代表の下山保さんたち3人が新潟県内の農協を訪ねてくれたのですが、2つの農協から断られて、これが最後ということで旧笹神農協に来られました。当時の鈴木喜一組合長と下山さんは、食の安全や環境問題で話が合いましたが、下山さんは鈴木組合長の話が「ズウズウ弁で分かったかかった」ようで、トイシで偶然下山さんと一緒に立った際に「通訳してくれ」ということでその場に立ち会うことにな

りました。

——取引は順調に行ったのですか。

なかなかうまくは行きませんでした。バルシステムに、1982年に2000俵、1983年3000俵、1984年に4000俵出荷しました。当然いわゆる「ヤミ米」ということになります。この段階で新潟県経済連からストップがかかり、やむなく出荷はこまめになりました。五十嵐組合長からは、「今は仕方がないけど将来はバルシステムと取引をしよう」ということで、お米の取引がまま数年間交流事業をすることになります。

1987年に特別栽培米の制度ができて、1988年からバルシステムとお米の産直が正式に始まります。

——BMW技術との出会いはどうだったのですか。

1991年10月に堆肥施設「ゆうきセンター」が竣工するのですが、2年以上前から準備に入り、先進地視察ということでBMW技術を導入した米沢郷牧場などを視察することになりました。それがBMW技術との出会いです。センターは笹神村が作り、運営はささかみ農協がやることになりました。その過程で、米沢郷牧場の伊藤幸吉さん、BMW技術協会の椎名盛男さん、黒富士農場の向山茂徳さんには随分お世話になりました。

——なにかBMW技術で「事件」を起こしたそうですね。

実はBMW技術協会の当時の秋田彦彦理事長に内緒で、500リットルタンクを4つ繋いで、「良い土壌」を使ってブ



石塚美津夫さん ～有機栽培の田んぼにて～

ラントを作りました。そして「これがBMW技術のプラントです」ということで県の担当者にも見せたのです。そんなことをしたらいけないという認識はありませんでした。県の担当者が「生物活性水」を持ち帰り分析したら大腸菌が出たので、BMW技術協会に質問状を送ったのです。それですべてが分かり、3年ほどBMW技術協会から相手にされませんでした。3年くらい後に正式に本格的な生物活性水プラントを作ることになりました。

——堆肥施設「ゆうきセンター」が見直された時期があったそうですね。
堆肥が売れずに「お荷物」になりかけていたのですが、1993年に冷夏による米パニックが起こり、生産者はみんな収量を落としたのですが、このゆうきセンターの堆肥を使っていた生産者はそれ

ほど収量が落ちませんでした。それで評価が上がって堆肥が売れるようになりましただ。また、この米パニックをきっかけに、パルシステムの予約登録米制度が始まることになりました。

——他から見ると油が乗りきっている時に農協を辞めたようですが、どうしてですか。

2007年、55歳の時に農協を辞めました。農協を辞める前はとにかく忙しかった。当時は営業課長で、月に4〜5回東京に行っていました。そして堆肥センターの仕事、交流事業、ペンションの運営、ペンションはパルシステムの所有でしたが運営にかかっていました。自宅では農家民宿をやっていました。五十嵐組合長からは「サラリーマンにはなるな、農協マンとして生きる、そして農業をやめるな」と言われていましたので、5haの田んぼ、うち半分の2.5haは有機栽培、残りの半分は減農薬栽培をやってきました。そんな私を見て、環境運動家の辻信一さんから、「石塚さんは忙しすぎる、要らないものを順に引いてごらん」と言われました。

それで引いてみたら有機農業しか残りませんでした。それに、片手間で作るのには有機農業に失礼だと思っていただいたので、55歳で辞めました。実はそれまで、堆肥センターを作るときなど4回辞表を出していました。だから本当に辞める時に苦労しました。

——次男の浩二さんが就農されました。子どもは長男・次男・長女の3人です。

農協を辞めるときに子どもたちが「ご苦労さん会」を開いてくれました。その時に子どもたちに向かって「自分は10代目だが、11代目は誰がやる？」と聞きました。そうしたら長女が「私がやる」といったのです。次に長男が「自分がやる」と言いました。それを見ていた次男の浩二が「おれに継がせてくれ」と言いました。

浩二は高校からボクシングをしてプロになりました。プロに見切りをつけてからはアメリカに単身わたって英語を覚え、プロモーターの通訳をしていました。実は、何か農業関係の集まりに、東大の先生や豊岡市長がいて、そこで私が堂々と話しているのを浩二が見ていたようで、「ボクシングの世界は見切った。自分の生き方として一生やりたい仕事は農業だ」と思っていたようで、その決心の結果の「継ぎたい」だったようです。

——家族経営の農業に思うところがあるようです。

経営規模は、高校卒業のころは1.5haで、2007年に農協を辞めた時は5ha、現在はお米8.5haは全部JAS有機栽培、3haのエゴマと菜種、全部で11.5haです。自分と妻、息子と息子の嫁さんと4人で会社組織にして運営しています。実は農協時代に、こんな例が多かったのです。親父が実権を持っていて何でも仕事を言いつけて、もちろん税務申告も親父が全部するが、親父がぼろぼろ亡くなってしまおうと家族は何も分からないと相談をよく受けていました。そんな事例を見てきたので、経営

はオープンにして、かつ男女同権の時代です。ので4人の会社にしたということです。販売高の3分の1は4人の給与にすることをしています。

——これからやりたいことを聞かせてください。

パルシステムの職員・組合員の皆さんは昔のことをあまり知りません。どういう経過で関係を続けてきたかを知った上で何をすべきかを考える必要があると思っています。それでパルシステムの教育係を20年くらいしています。この数年間で言えば、毎年600〜900人くらいを受け入れています。田植えや稲刈りなどで、100人単位のツアーを受け入れています。受け入れるためにBMW技術（生物活性水プラント）を使ったトイレも作りました。トイレの排水で生物活性水を作っています。

それから学校給食で有機の米や野菜を子どもたちに食べてもらいたいと思っています。野菜に興味を持ってもらうために小学校に体験畑を作ってもらい、子供たちの野菜作りをお手伝いしています。

それと、菌の世界に興味があります。どうなっているかが分かるようになってきました。ボカシは稲作であれば、稲の50%、土中のバクテリアのために50%、菌のコロネーションが大切だと思っています。人間が菌を選ぶのではなく、菌から選ばれたいですね。

——やりたいことが一杯ですね。ありがとうございます。

（聞き手 西日本BMW技術協会 宮崎利明）

事務局だより

BMW
技術協会
&
匠集団そら

2025
7月 - 8月
Jul - Aug

7月の活動

- 1日 静岡県熱海市で開催されたバルシステム協力会の総会に出席
- 3日 岡山県岡山市のグリーンコープおかやまを訪問
- 埼玉県飯能市の生活クラブたまご飯能G Pセンターにてプラント点検
- 4日 広島県広島市の広島自然学研究所にてプラント巡回
- 8日 福岡県中津市にて耶馬溪ファーム第5回建設定例会議に出席
- 宮崎県綾町の綾町有機農業開発センターにてプラントの補修工事
- 9～10日 第24回BMW技術基礎セミナーを西日本BMW技術協会の総会・研修会と共同開催
- 11日 新潟県阿賀野市の夢の谷ファームにてプラント点検
- 12日 福島県二本松市のサンシャインにてプラント点検
- 15日 福岡県宮若市のグリーンコープ連合会・若宮センターと筑紫野市の福岡青果センターにてプラント点検
- オンラインで開催されたグリーンクラブの総会に出席
- 16日 山形県村山市のバル・ミート山形事業所にてプラント点検
- 17日 山形県高島町の米沢郷牧場グループにてプラント点検
- 18日 千葉県千葉市で開催された千葉BMW技術協会の総会・研修会に出席
- 20日 新潟県阿賀野市で開催された新潟オーガニックフェスタに参加

21日 埼玉県飯能市の生活クラブたまご飯能G Pセンターにてプラント点検

22日 茨城県水戸市のバルシステム茨城栃木みとセンターにて第34回BMW技術全国交流会実行委員会・第2回ミーティングに出席

25日 茨城県水戸市のささめ33ファーム、茨城町の清水牧場にてプラント点検

30～31日 ベトナムにてプラント設置に向けた現地調査と準備

【8月の予定】

3日 フィリピン・ネグロス島のカネシゲファーム・ルーラルキャンパスにて理事会に出席

5～8日 フィリピン・ネグロス島で開催される、ネグロス民衆交易メモリアルツアーに参加

7日 岡山県高梁市のきじまる堆肥センター、井原市の食肉センターにてプラント巡回

19日 新潟県阿賀野市で開催される新潟BMW自然塾の総会・学習会に出席

22～27日 ベトナム・ハノイ市にて生物活性水プラントの設置工事予定

【事務局より】

第34回BMW技術全国交流会の概要がまとまり、開催案内はもう間もなく皆様にお届けできると思っています。実行委員会の皆さんの熱意も徐々に高まってきており、9月には奥地先生を招いた現地調査と学習会、これによって、開催に向けて実行委員会の意識が、さらに高まっていくと思うので楽しみです。

(記) BMW技術協会事務局 秋山澄江

薬膳の話 142 ウニ

日本では1年中ウニが水揚げされています。海藻やフランクトンを食べ育てるので、昆布の名産地北海道の利尻、礼文、羅臼、日高のエゾバフンウニ、キタムラサキウニは上物と言われています。旬は6月～8月です。函館では9月～5月が旬です。北陸や東北は夏、中国・九州は春にムラサキウニ、冬にアカウニが獲れます。

ウニの身といわれているのは産卵期の卵巣や精巣が成熟したものです。ビタミンB群や、亜鉛、鉄分、脂質を多く含みます。旨味成分はアミノ酸のメチオニン、アラニン、グルタミン酸などです。イノシン酸も含み、グルタミン酸との相乗効果で甘さと旨味が生まれます。

本では古くから好まれていた食材ですが、生ウニが食べられるようになったのは、チルド冷蔵輸送技術が発達した近年のことです。

最近では、海水温の上昇や赤潮、台風の影響を受けない陸上養殖が始まっています。2026年からは回転寿司のチェーン店も参入するようです。

四気は「涼」、五味は「甘、塩辛い」、帰経は「心臓、肺、すい臓、腎臓」です。胃腸を丈夫にし、食を進め、胃酸過多による疼痛を和らげます。痰を取り除き、むくみや腫れを取り、できもの、しこりを散らします。中国ではウニ殻を「海胆」と呼び、痰を除いたり、腫物を散らす時に使います。

急に頭がボーっとしたり、吐き気や息苦しさを感じたりしたら、熱中症かもしれません。応急処置は、左右の親指をのぞく4本の指でみぞおちの辺りを押し、硬くなっているところを探します。初めのうちは痛みがありますが、押さえ続けていると、だんだんゆるんで来るので、左右に少し揺らしてほぐします。薬になったら、頭頂部を冷やし、塩分と水分を補給します。



生ウニに塩を振り、水分を飛ばしながら1個のウニを1グラムになるまで凝縮させたものが「越前の塩ウニ」です。「尾張のコンワタ」、「肥前のガラスミ」と共に江戸時代、天下の三珍と言われていました。平城京にもこの越前塩ウニは納められていました。縄文時代の遺跡からもウニ殻が出土していて、日

◎BMW技術協会事務局 佐々木エリカ
北京中医药大学日本校薬膳養成学科卒業
中医薬膳士、総合漢方研究会会員